

富士見市防災環境カルテ
鶴瀬東2丁目北町会

位置番号 16

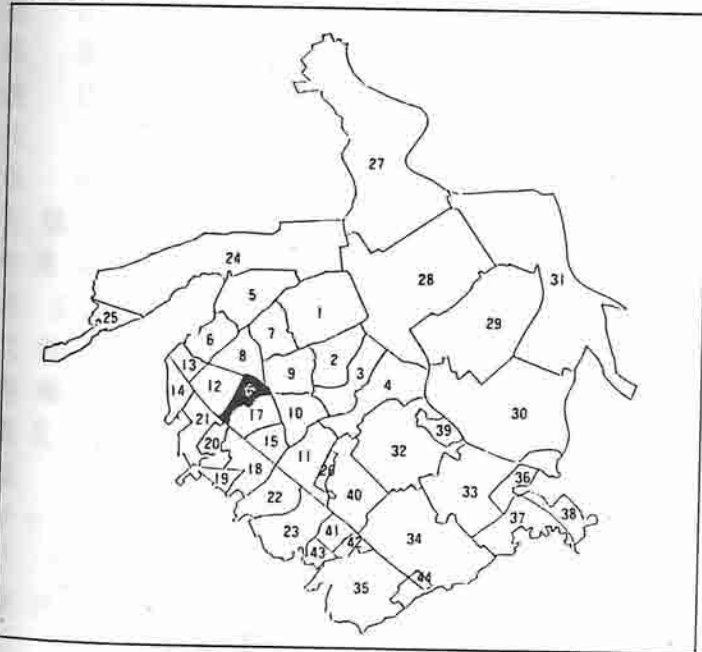
・概況

鶴瀬東2丁目北町会は、富士見市の西部に位置し、権平川沿いに北上する浅い谷（浸食凹地）が町会の中央部で大きく西へ方向を変える低地と、北側、東側の台地（台地段丘）で形成されている。北東部に県道大井・朝霞線、南西部に東武東上線が通っている。環境は、良好である。ただし、権平川沿いにある住宅地域は生活道路の幅員が狭く、防災上の問題が多い。浅い谷は、盛土されて宅地化が進み、住宅地、商店街に変貌している。北部の台地も浅い谷と同様宅地化が進んで住宅が密集化している。

台風に伴う大雨により、権平川が溢水する内水災害は、権平川の改修工事が進み、発生は少なくなった。

地震災害は、木造建物密集地で火災が発生した場合、延焼の危険性がやや高いと予想される。

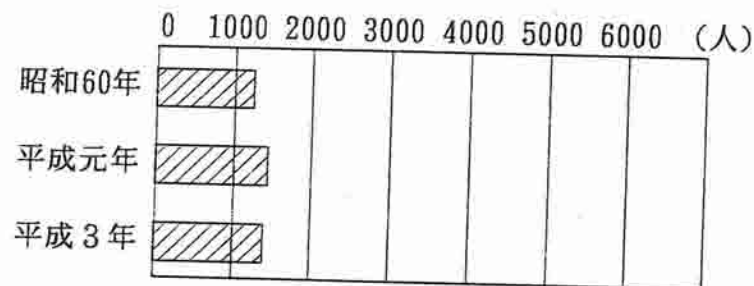
・位置図



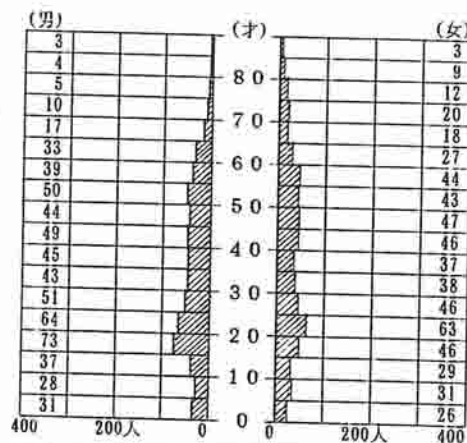
1. 基礎指標

・面積	0.099 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	744人
女	740人
計	1,484人
・人口密度	14,989.9人/km ²
・寝たきり老人数	3人
・ひとり暮らし老人数	14人
・世帯数	554世帯

・人口推移

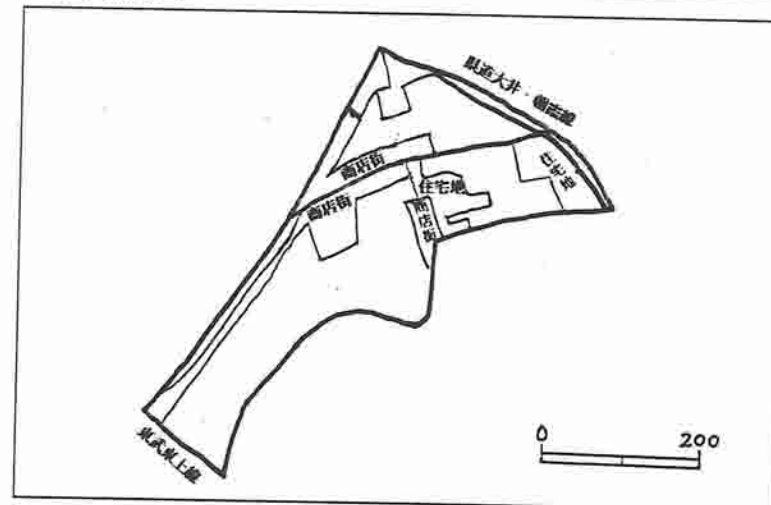


・年齢別人口(平成3年)

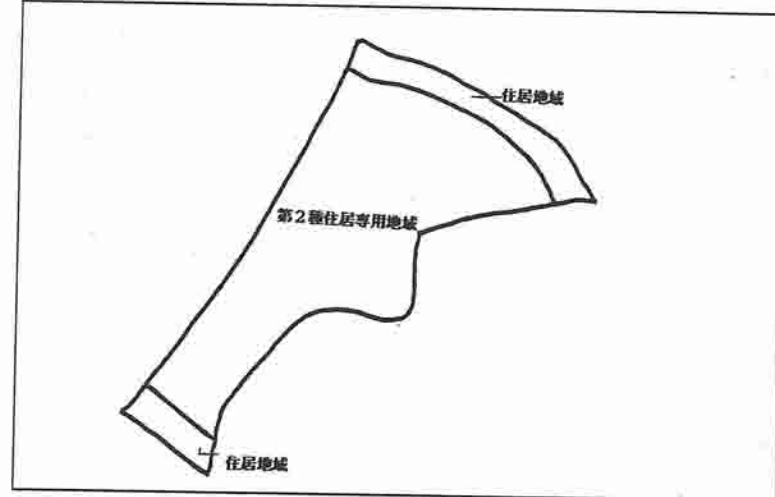


・商住工混在率住居系	77.7%
店舗系	19.1%
工業系	3.2%

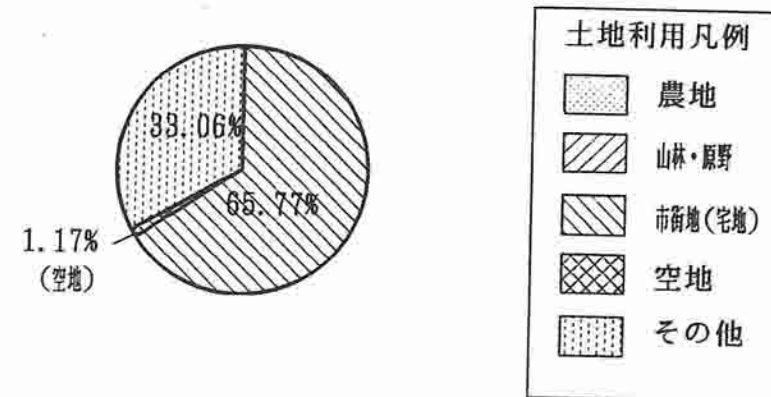
・町会現況図



・用途地域図



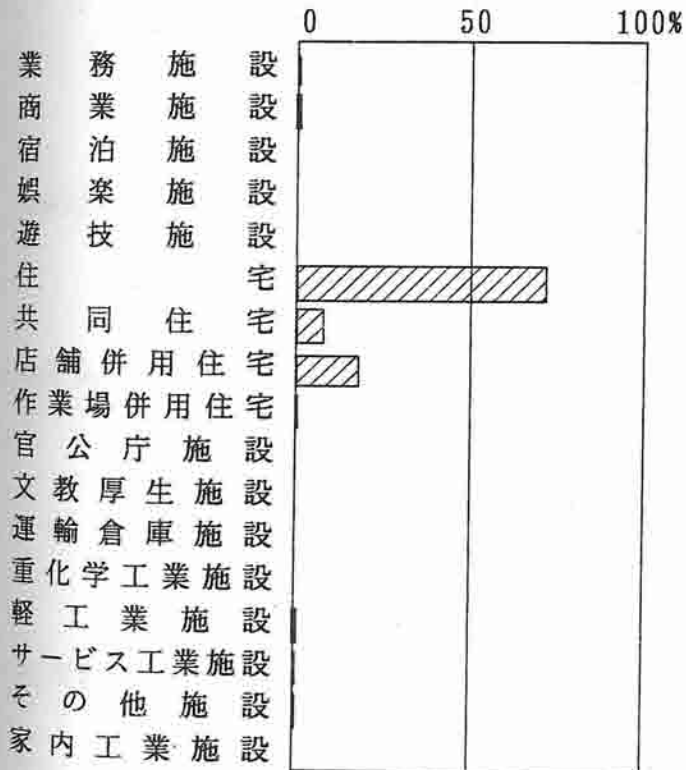
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	437棟
・木造建物	374棟
・非木造建物	63棟
・建物面積	17,929.40㎡
・木造建物	14,174.60㎡
・非木造建物	3,754.80㎡
※建物面積は1階の面積	
・住宅率	71.2%
・木造率	85.6% (374棟)
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	38棟
・同上率	10.2%
・建物階層別現況(木造建物)	
1階	161棟 43.0%
2階以上	213棟 57.0%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	19本	191.9本/㎢
・幹線道路率	2本	20.2本/㎢
・公共空地面積		0㎡
・公共空地率		0%
・1人あたり公共空地		0㎡/人
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 小学校	0㎡	
4. 公園	0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署
応援協定	所沢市、川越地区消防組合、新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	6本
・1消火栓あたり世帯数	92.3世帯/本
・消防水利貯水施設数	1 (1) 箇所
()内は容量40トン以上の施設数	
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0箇所
・一般取扱所	2箇所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0箇所
・地下タンク貯蔵所	0箇所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和56年10月(氾濫24号)	135棟	1棟	か所
” 57年 9月(氾濫18号)	82棟	20棟	か所
” 58年 7月(大雨)	7棟	2棟	か所
平成元年 8月(大雨)	19棟	0棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 (年 ~ 年)			0件
・火災出火件数 (年 ~ 年)			0件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0箇所	
病院	0箇所	
医院	1箇所	鈴木眼科医院
休日診療所	0箇所	
警察	0箇所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	1箇所	鶴瀬東2丁目排水ポンプ場
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

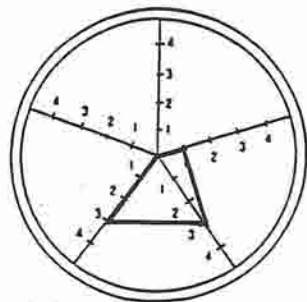
・内水災害危険度	0ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	3ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	1ランク
危険度	液状化危険度	0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

※ 想定震度 台地5(+) (強震(強))
 浅い谷6(-) (烈震(弱))

9. 地盤条件

地盤は、北部の台地で硬く、南部の浅い谷で比較的軟らかい。台地部は震度5(+) (強震の強い方)、浅い谷で震度6(-) (烈震の弱い方)の地震が予想される。

10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	権平川の改修工事が進み内水災害の発生は少ない。	1. 水防能力	権平川沿いに貯留浸透工事、パラペット築造が施工され、鶴瀬東2丁目排水ポンプ場が設置されている。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	権平川上流左岸沿いの古い木造建物の倒壊の危険性がやや高いので注意を要する。台地部では倒壊の危険性は低い。	3. 消防能力	世帯数に比較して消火栓数が少ない。権平川沿いの住宅密集地(木造建物)内の生活道路は幅員が狭く消防車の消火活動を低下させる。
4. 出火危険	権平川上流左岸沿いの住宅密集地で出火の危険性がやや高いと予想される。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率が50%~70%と見込まれるため権平川上流左岸沿いの住宅密集地で延焼の危険性がやや高いと予想される。	5. 避難収容力	町会内には指定避難所は無いため、富士見台中学校(諏訪2丁目町会)を共用する。
6. その他の災害	無い。		

11. 解決の方向性

地震火災の危険性のやや高い権平川沿いの住宅密集地の消防能力、防火能力は低い。したがって、消火栓の増設、住宅地の不燃化、住宅地、商店街の生活道路の拡幅など、抜本的な処置が望まれる。また、避難可能な道路へ出るため、道路沿いにあるブロック塀の倒壊による生活道路の狭隘化予防対策の指導が望ましい。

防災現況図A(災害発生要因)

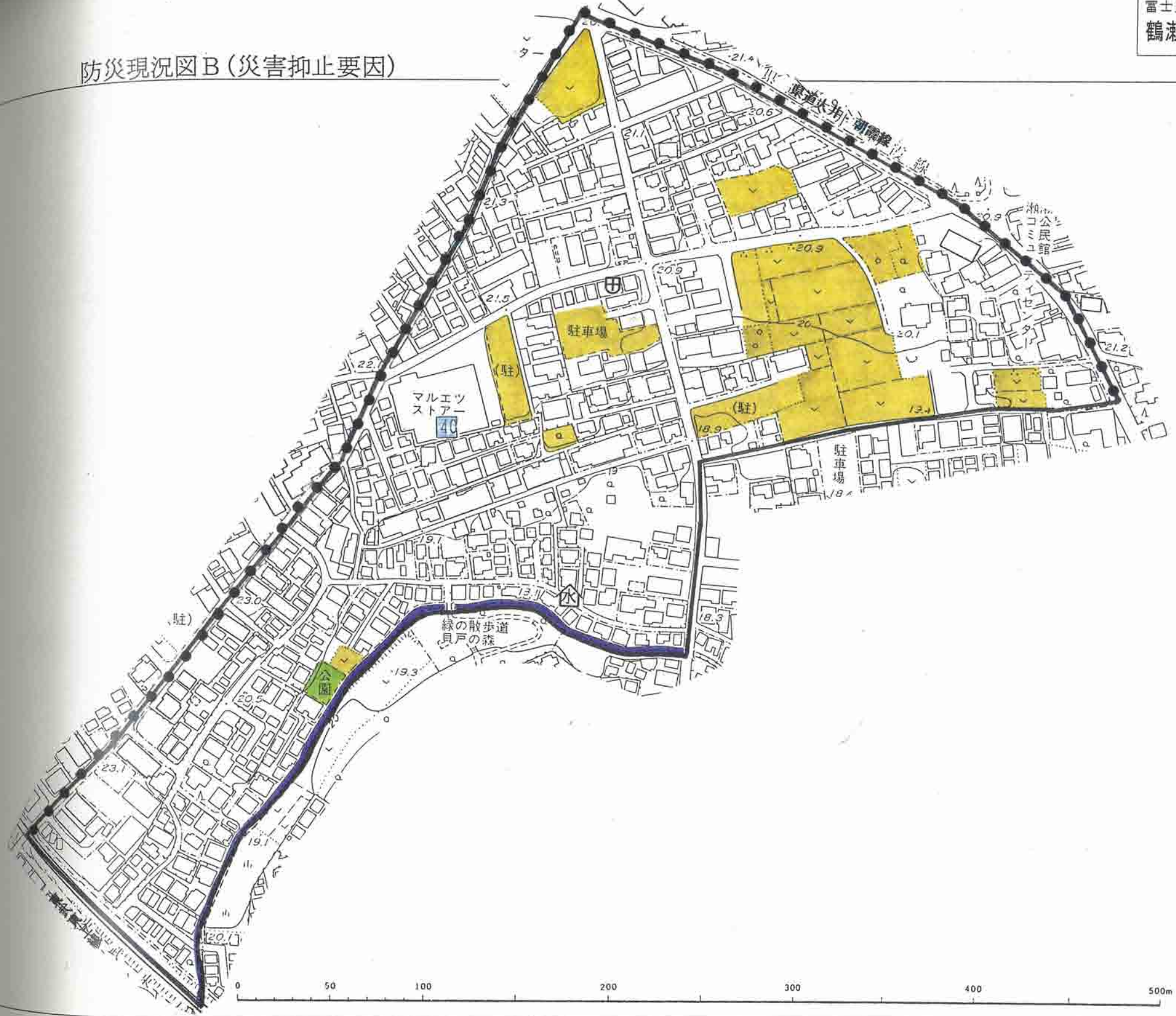


凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⊙	危険物屋内タンク貯蔵所
◇	危険物屋外タンク貯蔵所
⊠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立体交差
□	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
●	盛 土
□	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B (災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

